
リトルウイング雑務日誌セカンドシーズン 混・沌・交・錯

オンドゥル侍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リトルウイング 雜務日誌セカンドシーズン 混・沌・交・錯

【Zコード】

Z0865BA

【作者名】

オンドウル侍

【あらすじ】

突如、ファンタシースターの世界に色々な作品のキャラがやってきた！これが前作である。その後、キャラたちは作品を超えてお互いに親睦を深めていく。そして、クリスマスで終わつたかと思いきや、まさかのセカンドシーズンで、原作も追加してクラッド6はD A I K O N R A N！下ネタあり、オンドウルあり、キャラ崩壊ありのクロスオーバーギャグ小説、まさかの第2弾！

原作一覧：ファンタシースター、仮面ライダー、GANTZ、青の祓魔師、FAIRY TAIL、銀魂、SKET DANCE、F

a t e、メタルギアソリッド ピースウォーカー、遊戯王5D's、
ガンダム、トリコ
(この小説はコラボフリーです。)

キャラ紹介 P.S.メイン編（前書き）

キャラ紹介です。まずは一番のメインであるファンタシースター系キャラをやります。ちなみにオリジナルキャラも含みますので。

アダム・マクスウェル

『PHANTASY STAR GANTZ』系および『PHANTASY STAR PORTABLE2 鬼神と少女のモノガタリ』主人公。前作では『実質的』主人公だったが、今作にて正式な主人公に任命されたヒューマン。貧乳好きだがあくまで女性好みに止まっている。

身体能力はごく平均的だがそれを使う技術が半端ではないため戦闘能力は尋常ではなく、更に常時着用しているガンツースーツがそのまま強さを引き出している。武器なら何でも使いこなせるが、特に双剣とライフルの扱いが得意で、多用するガンツ武器もガンツソード2刀流とXショットガン。

ルミア・ウエーバーとは恋人同士。それまではかなりの美形で性格も良いにもかかわらず20年間彼女がいなかつた事もあり、ルミアの事をとても大切にしているが、そのドMっぷりには少し困っている様子。

ガンツースーツが唯一のキャラ立ち要素だが、大量の予備があるため、オシャカになつても特に問題はない。

ポジションはツツコミだがボケるときはボケる。

エミリア・パーシバル

一応はこの小説のヒロインだが、ルミアに立場を脅かされつつある。元々はスーパーコンピューターに引けを取らない未曾有の天才だったが、海東に演算能力を奪われて未曾有のアホになる。ただ、現在はクラッド学園で勉強しているため、学力もせいぜい一般的なアホのレベルに回復しつつある。

とにかくよく食う。以上によく食う。トリコに負けないくらいよ

く食つ。ただ自分で料理を作るとなるとてんで駄目で、しかもたちが悪い事に本人にその自覚はない（料理下手は公式設定）。

一応ガンツスースとXガン2丁も所持しているが、アダムのキャラ立ち要素を無くしてしまったのを防ぐために使用は控えている。
ツツツツのはずだがボケに走る事が多くなつた、所謂新ハ的キャラ。

コート・ユン・ユンカース

モトウブの原住民族『カーシュ族』出身の少年。^{ショタ}純真無垢で真つすぐな性格のはずだが、あまりに純粹であるがゆえに自分の欲望、とりわけ性欲に素直。好みのタイプは黒髪ロングで巨乳の女性らしく、そのためナギサに対するセクハラ発言が目立つ。ただ、流石に一線は心得ている。

元々、ビーストの血が入つていて以外は普通の沼男だったが、エミリアによる、最強最悪のブラスト技『コートブラスト』を使えるようになるための改造手術が原因で身体に変調をきたし、世紀末レベルの戦闘能力を手に入れる。ただチエルシーにだけは勝てない。ガンツスースも持つてはいるが素体スペックがダヴィデ星人すら軽く凌駕してしまうほどそのためそもそも着る必要が無い。

もちろんボケである。

ルミア・ウェーバー

アダムの恋人。元々は生真面目で頑固な性格の普通のヒューマンの少女だったが、笑つてはいけない勉強合宿でケツをぶたれまくつた事をきっかけとして、マキシマムハイパー・サイクロンの直撃を喰らつても大興奮する筋金入りのドMに覚醒。それに伴つて何故か体

もかなり丈夫になっており、胸のサイズに対する蔑み以外なら、いかなる肉体的、精神的攻撃にも耐えられる。

アダムに告白したのは彼女の方。ふたりの関係は悪くないが、お互い心の準備が出来ていないと先には行った事が無い。ツツコむ事もたまにあるが基本ボケ。

シズル・シュウ

この小説の不憫担当。元々エミリアと並ぶ天才だったのに海東のせいでエミリア同様未曾有のアホになる。しかも、学校に通つてないため学力はどんどんだがつており、しかも元がエミリアよりはるかに下だつたため、間違いなくグラールーのアホ。厨二病でウブでカナヅチでもある。

最初の方は彼女がいない反動から2次元に走つたヲタだったが、桜椿さんの世界から派遣された悠莉・インヴェナーとの交際がスタートしてからは彼女を悲しませたくないという思いから節度をわきまえるようになった。

ツツコミ担当だが、あまりの不憫体質故『存在自体がボケ』と揶揄られるほど。

ナギサ

デューマンの少女、と言つても、少女と言つ呼び方が似合わないほど大人びた印象を与える。眼帯。そして一番の特記事項は黒髪ロングでナイスバディと言つ事。故に男性プレイヤーから絶大な支持が寄せられている。

鴻上ファウンデーションライドベンダー隊隊長であり仮面ライダ

一バースの後藤慎太郎と恋仲。ただ、旧文明人ワインールをその体に宿しているため5103と一人きりになれず、そのため進展はありません。

ボケ担当だがツツコむ時はツツコむ。

クライス

『仮面ライダードラゴンナイト 翼を抱いた鏡の戦士』出身。DNAが同じため身体的特徴はコートと完全に一致。ただ性格は結構違う。ライダーの力に呑まれて狂気に走った戦闘狂となっていたが、雑務日誌の世界で皆と触れ合うことで本来の心優しさを取り戻しつつある。ただ処刑人としてのプライドがあるからかなかなか素直になれず、それがツンデレキャラとして表れている。変身するライダーはブルース（アビス）で、そのため『ツンデレショタザメ』と呼ばれる。文武両道で非常に優秀。

コートと反対のツツコミ担当。

アレン・クラウド

『仮面ライダードラゴンナイト 翼を抱いた鏡の戦士』主人公。アダムと違つてキャラ立ち要素がほぼ無いため最近影が薄くなりつつある。コートと同類の、巨乳好きド変態。同人誌サークルに所属。

よく勘違こられたる事は、一見、口の轉の事である。（前書き）

シーブラック「あたましておめでたの件これが…。」

弦太郎「よし、じゃあ此であれやるぜ…新年んんん…」

皆「……………」

よく勘違こなすのは、たぶん、一見、一団の軽の事である。

「アダム、おめでとうおめでとう。」

ヒロコア、「おめでとう。」

ユート、「おめでとう。」

ルミア、「おめでとう。」アダムも、「アダムも。」

シズル、「おめでとう。」

ナギサ、「おめでとう。」

クライス、「お、おめでとう。」

アレン、「おめでとう。」

アダム「よし、皆今年もよろしくなーつてなわけで、ヒロコア、ユート、ルミア、ナギサ、クライス、ちょっとこっち来い。」

ヒロコア、「ん? なに?」

アダム「何つて、決まってるだろ。お年玉だ。一応この中で最年長（現在21歳）なんだし。」5人に封筒を渡す

ヒロコア、「あ、ありがと。」

ユート、「ん~、どれどれ。」

ルニア「え…これ…2万メセタも入りますが！」

ナギサ「こんなにくれるなんて…あなたの財布は大丈夫なのか？」

クライス「別に頼んでないけど…あ、ありがとう…」

アダム「大丈夫だ。これくらい何て事無えよ。」

(クラウチとウルスラとチャエルシーが出てくる)

クラウチ「うし、じゃあ初詣行くぞ！」

ウルスラ「皆、準備は出来てるわよね。」

チャエルシー「ハイ、未成年組に私達からのお年玉パー。」

ヒリコア「ふおおお…何買おつかな…」

ゴート「ヒリアー・プリンだ!・プリンをこっぽに食べれるぞー。」

アレン「みんな相変わらず元気だな。」

シズル「しまつた…僕お年玉とか何もない…」 現在20歳

ナギサ「まあ、あまりたくさんもらひ過ぎても困るしな。」

クラウチ「オイー、ほわつとしてると置いてくぜー。」

(クラシックの内神社)

ヒロコア「わて、お参りも終わつたし、こよこよ出店でおこしも
の食べるわよー。」

ゴート「おーー。」

クライス「はしゃぐなつづーの。見てるこいつが恥ずかしいだろ
うが。」

アダム「……ん?アレって」

玄野「お、あこひらつて」

加藤「主役キャラたひだよ。GANZENキャラを代表してケイちゃん
が挨拶に行つてきたりだよ。」

玄野「ハア……つたく、しゃあねーな。じや、タヒちゃんはここで待
つてて。」

多恵「分かった。」

玄野「おーい。」

アダム「あ、玄野ちゃん。お前らわいに来たんだな、ようじく。」

玄野「おお。」アダムと握手

アダム「んじゃ、お近づきの印に食こもろひせてくれねえ?」

玄野「え?いいのか?あ、ありがと。あ、タエちゃんも連れてっていいか?」

アダム「いいぜ。」

加藤「主人公同士なのか意氣投合してるな。」

エミリア「それに、スーシ無かつたら一人ともこれと言ったキャラ立ち要素ないしね。」

加藤「言つてやるな。」

アダム「何がいいんだ? 何でも言いな。」

玄野「あ、じゃあ、そのラーメンでいいか?」

アダム「おお、いいぜ。おーい! ラーメン2つ!」 屋台の人へ呼び掛ける

涼子「ハイ、分かりました! すぐ出しますね!」

玄野「お、涼子ちゃんじやん。屋台出してんだな。」

涼子「あ、玄野君。小島さんもいるけど、その方は?」

アダム「アダム・マクスウェルって言つ名前だ。よろしくな。」

多恵「結構人がよそそうだよね。アダムさん。」

アダム「さん付けはいって。」

和泉「へいお待ち! ラーメン1つ」 ラーメンを持ち、普段からは想像もできないさわやかな笑顔を浮かべて振り返るが、玄野と田代があつた瞬間それがひきつった表情に変わる

玄野「あ、和泉。」

和泉「……玄野。」の事は黙つてくれ。……言つなよ……絶対言つなよ
！」

玄野「それって、言えってことだよな。」

和泉「頼む！言わないでくれ！俺の活券にかかるから！毎日あく
せく働いても日照りで作物は全滅、おらたちのところにはちょっと
しか残つて無いんでさあ！それまで取り上げられたらおらたちはどう
したらいいんですかい、勘弁してくださいせえ、おねがえで！」せえま
すお代官様！」 玄野の足元でDO GE NA

多恵（これが…あの…和泉君…）

アダム「必死にもほどがあるだろ…」

（玄野、笑いながら写メを取る）

涼子「お願い、誰にも言わないであげて！」

玄野「ん~、分かった。じゃあ、言わないでやるよ。」

和泉「絶対だからな。あ、とりあえずラーメン。2つで800メセ
タだ。」

アダム「あ、ありがと。」 代金を渡して去る

西「おひ、ミスターDO GE NAだ。」

「E3「DOGEZAの和泉だ。」

園ちゃん「いんにちば、DO GE NA君。」

和泉「なに…？あいつら、さつきはいなかつたはずだ…クソッ！」

ケーブルを取り出す

涼子「和泉君、ちょっと落ち着いて。」

和泉「オイ玄野！誰にも言つなつて言つただろ！」

玄野『ああ、言つてねえよ。言つなつて言われたからDDOGEZAの写真をpixivとFACEBOOKとツイッターにアップしただけだ。』

加藤「和泉はツツ「ミか…」

山咲「しかものつけから不憫やし。」

よく勘違いやがるが元旦は一月一日の朝の事である。（後書き）

ハイ、てな訳でセカンドシーズン第1話です。

新年会ひやつた事無い　ｂｙ作者（前書き）

今回から参戦するコラボキャラ列挙。

澤木翔太郎&Rフイリップ（仮面ライダーW news
toruから）

神童永司（仮面ライダーオーズ オメガブレイクストーリーから）

暁洸介&セイバー（ジャンヌ・ダルク）（仮面ライダーヴ
アローネ～the magician rider～から）

悠莉・インヴェナー（PHANTASY STAR PORTAB
LE2 -インフィニティ 死神と小さき翼の物語およびリトルウ
イングの非日常から）

宇都宮咲魔&秋吉夜哉（転生してもつた！系およびINS
ANITYから）

コラボのセイバーは、アーサーの方との混同を防止するためにジャンヌと表記します。

新年会ひやつた事無い b/s 作者

(チルシーのバー、『スコーチド・アース』にて)

士「新年明けましておめでとうござこますー」と訳す
ワールド新年会を開催しますー。」
雑務日誌

パチパチパチ

士「では、皆さん、いよいよお楽しみを。」

士郎「おーい。『メン、ここ』で食べていいか?」

HIIコア「どうしたの? Fate勢つてあっちで飲み食いしてたん
じゃなかつたつけ?」

士郎「そつなんだけど……」 Fate勢のテーブルを描きます

(セイバーを中心に物凄い負のオーラが湧き出ている)

クライス「どうしたんだあれ? ん? アダム、何か表情がへんだけ
ど。」

アダム「たぶんあれ、俺の所為だ……」

皆「「「「へ?」「」「」

士郎「ああ、そうかそれで…」

シズル「何か知ってるのか?」

士郎「実はさ、セイバーの奴、アダムがガンツチーム最強の剣士って情報を聞きつけて決闘を申し込んでさ。セイバーは自信満々だったんだけど、流石にガンツソードさえあればしようと星人1体ぐらいならステッキなしでも倒せるほど強いアダムにステッキでしかも本氣出されたら流石のセイバーでも勝てるわけ無くてそれはそれは悲惨なほど惨敗してさ。それであんな感じなんだ。」

口口「確かに、騎士王の名を冠するセイバーちゃんがそんなにひどい負け方したら落ち込むよね。」

洸介「ちょっと俺が慰めに行つてくれる。おーいアーサーの方のセイバーよ…」

(セイバーの憂鬱モードが一瞬で洸介に伝染)

ジャンヌ「ふつー」 FAIRY? TAILにおいて有名な『ぐもーつー』の表情になる

ルミア「…和泉さん、行ってください。」

和泉「何で俺なんだ!」

ルミア「いぢやいぢや言つてないで行きなさい」 和泉をセイバーの方に蹴つ飛ばす

和泉「どわあああ！」

シズル「…あ、そつか！和泉はスーツを着ているから負のオーラに耐えられるかもしねな…」

キュウウウウウウン ドロッ…

土郎「きゅうううん？」

イリヤ「ビリリ？」

ヒロア「あ、和泉のスーツがオシャカになつた…」

皆「「「「え、ええええええ！－！？？」」」」

（和泉にも憂鬱モードが伝染）

岡「しゃあないな。俺が行つてくるわ。」 パワードスーツ（ガンツスーツの強化版）を着ている

咲魔「あ、じゃあ私も！」 パワードスーツを創造

アダム「パワードスーツなら、通常のスーツが一撃でオシャカになるような攻撃に何発でも耐えられる…」 これな「」

キュウウウウン ドロッ…

夜哉「ウゾダンドードーン…」

(岡と咲魔にも憂鬱モードが以下略)

大文字「どうする?パワードースツも使えないんじゃ……」

美羽「ちょっと待つて、セイバーが何か言つてるわよ。」

セイバー「……くだ……」

美羽「チエルシーさん、セイバーから注文よ。」

チエルシー「ハ～イ、ただいま!」 糸電話をオーラの外から投げる

セイバー「…をください…」 糸電話から話す

チエルシー「ンン? もうちょっと大きい声で頼むわヨー。」

セイバー「…この店で一番強い…を酒をください…」

チエルシー「分かったワヨー。」

(キヤバ嬢が一人出てきて、ピザを焼くときに使うアレにウォッカのボトルを乗せてセイバーに渡す)

士郎「ヤケ酒で気分を紛らわそうとしてるのか?」

(セイバー、ウォッカをラップ飲み)

ジャンヌ「そんなに飲んで大丈夫ですかアーサー…」

セイバー「ブッハー！いやーもう酒でも飲まなきゃやつてらんね~
つて(>▽<)ー」左の顔文字と寸分違わぬ表情

「……………」

セイバー「お～二十歳～、お酒も口が開くや～。それでお酒も呑
みなつて～。」

士郎「ええ？いや、でも俺はアルコールは…」

セイバー「なんだよ、アタイの酒が飲めねえってか?」
ボトルをねじ込む
土朗の口に

「アーリーモーニング」

（土朗、泥酔してダウン）

エミリア「セイバーって酔つたらキャラ変わるんだね…」

セイバー「オラヤ」のジャンヌ・ダルクよ～おみやーも呑めや～！」

ジャンヌ「いや、私は

セイバー「問答無用だこのやかー！」 ジャンヌに士郎と同じ事をする

ジャンヌ「」

(ジャンヌもダウン)

セイバー「おら～、追加だ追加だ！強い酒どんどん持つてこいや～！」

カナ「おっ、いい飲みつぱりだねあんた！あたしと飲み比べだ！」

セイバー「望むとこうだつちゅーの～！」

(セイバーとカナ、お互に呑みまくる)

30分後

士郎「ん……アレ、セイバーは？」

澤木翔太郎「ああ、泥酔してたから遠坂が連れて帰ったぜ。」

士郎「いっつ…頭いてえ…セイバーの野郎どんだけ飲ませたんだ俺に…」

翔太郎「ま、新年会はまだ続いているから、お前がセイバーの分まで楽しんでやれ。」

士郎「… そうだな。すいませーん！注文お願いします！」

シズル「全く、彼らはもっと静肅に飲めないのか…？」

悠莉「いいじゃないか。シズルも皆と飲んだらどうだ？」

シズル「いや、僕はちょっとな…」

ルミア「オラ～シズル～！」

カレン「付き合い悪いい～ぞ～！」

シズル「この人たちも結構絡んでくるんだつたな…分かつたよ。」

ユート「永司～！僕とお前、どっちが強いか勝負だ～！」 結構酔つてる

永司「望むところだ！」 意外にもシラフ

ゴート『オラアアアアアアアア…』　久々のゴートブラスト

『ユニコーン！グリフォンードラゴン！　ユニイイイグリイイイード
ウオオオオオズ…！』

シズル「もう止めてほしい…」

1時間後

チエルシー「私の店を荒らすな！」　女性用に改造したF.P.Sセットを着込み、同盟軍時代モード

ゴート&永司「「すびばせんでじだ…」」　ボッコボコ

懲りずに4度目キターッ！

クラウチ「さて、メンバーは全員そろったようだし、説明するぜ。」

玄野「何でGANTZから俺だけ？」

弦太郎「何か…嫌な予感がするぜ…」

アダム「俺とエミリアとシズルとクライスと玄野と弦太郎…大体想像はつくけど、何すか？」

エミリア「皆でイベントやるとか言つてたけど、100パーアレだよね…」

シズル「だな…宿泊の用意も持つてこいって言われたし…」

クライス「マジでふざけんな！何で僕が2度も…」

クラウチ「えー、お前らには今から、見習い警察官として2日間勤務に励んでもらう。特例の場合を除き、その間は何があつても笑つてはいけない。笑つたらその場でキツイお仕置きが待つてるぜ。」

玄野「ウソだろ…？参戦早々笑つてはいけない参加つて！」

弦太郎「遂に俺達ライダーも…」

ヒミコア「それくらいでビビッたら、皆勲賞のあたしとシズルはどうなるのよ…」

シズル「本当だよ全く…」

クラウチ「ヒシリギ、お前ら、その格好で警官の仕事をするつもりじゃないだろうな。着替えはアツチのボックスに用意してあるから、アレに入つて着替えて來い。」

皆「「「「「「くーい…」「」「」「」「」「」」

クラウチ「よし、じゃあ一人ずつ出て來い。」

アダム「ん…意外と悪くないかも。」

美形 コスプレ警官 アダム

ヒミコア「このスカート足開きにくい…」

大食い フトモモ警官 ヒミコア

シズル「せめてコート着用は許してくれ……生地が違つから落ち着かない……」

能無し 不憫警官 シズル

クライス「拳銃は無いのかよ。」

優秀 ツンデレ警官 クライス

弦太郎「何か落ち着かないぜ……」

ヤンキー 口ケット頭警官 弦太郎

玄野「メンドくせえ……ま、いつか。」

コスプレその2 雷行燈警官 玄野

クラウチ「全員着替え終わつたな。よし、こじでちょっと待つてろ。バスが来るぜ。ナビゲーターももうすぐ来るはずだ。じゃ、俺は仕事があるから帰るぜ。」 その場を去る

クラッシュ・タウンモード
鬼柳「待たせたな。俺がナビゲーターの鬼柳だ。」

玄野「男かよ…」

鬼柳「じゃ、バス来たから乗れ。」

エミリア「行き先は…えっと…『オンドウル温度壳警察署』…」

アダム「作者どこのまでオンドウルに頼る氣だ…」

鬼柳「さあ、バスに乗った瞬間からスタートだ。気を引き締める。」

『絶対に笑つてはいけない警察署』スタート！

懲りずに4度目キターッ！（後書き）

ボッスンさんの世界から派遣されたバナージとヤミは次回から出ます。

絶対に笑つてはいけない警察署 PART 1 (前書き)

今回から、ボッシュさんとのコラボで金色の闇ヤマモチヤンとバナージ・リンクスが参戦します。

ヨーロンって面白いよねー。ぶっちゃけAGEよりずっといい。

絶対に笑つてはいけない警察署 PART1

玄野「あ、バス停まつたぞ。」

(ヤミが乗車し、メンバーの正面に座つて本を読みだす)

ヒミコア「いきなり『ラボキャラ使つてきたね。』

シズル「何読んでるんだ……えつと……レベルフツぽいな。」

ヤミ「……熱つつ！」 鯛焼きを一つ取り出してかじるが、あまりの熱さに思わず放り出す

玄野「ぶふつ」

クライス「くつくく……」

デデーン

『クライス 玄野 OOTO』

田中星人『祐三くん?』

クライス「いでえ！」

玄野「ぎやあ！」

(笑うと田中星人にケツをぶたれる)

ヒューガ「…これはこれは、ヤミさんではありますか。いやあ、改めて見ても非常にお美しいホゴオッ！」拳に変化したヤミの髪に顔面ストレートを叩きこまれる

ヤミ「殺しますよ。」

ヒューガ「……」メガネが割れてる

弦太郎「くくっ」

アダム「ふふつ」

玄野「カアアアアアアアアア…」

デデーン

『アダム 弦太郎 OUT』

アダム「ちょっと待て！玄野が松本と同じ手を使つてるけど！？」

田中星人『ハアーハアーハアー』

アダム「どお！」

弦太郎「いっだ！」

(バスが次の停留所に着き、ヤミが降りた直後にドアが閉まる)

弦太郎「誰も乗つてこねえぞ。」

「???'「停めてくれ!バスを停めてくれ!」

『ミコア「ふつ」

椿「バスを停めてくれええ!」首から下がスパイダーマンの格好でバスを追いかける

『テーン

『ミリア　〇〇一』

田中星人『カントローッ』

『ミコア「あ'うー」

(椿が見えなくなる)

『ミコア「どんだけ昔の映画使つのよ。』

クライス「作者の限界だろ。」

玄野「くふふつ」

シズル「ハイ笑つたー」

「テーン

『玄野 OUT』

田中星人『スイカの名産地?』

玄野「だあ！」

（停留所に到着し、ホストガムらいときるびるが乗り込んでくる）

玄野（あ、あいつ…）

ホストガムらい「……」持っていたカバンから般若のお面を出してかぶる

エミコア「ふふつ」

弦太郎「ぶつ」

シズル「くくく…」

『デーテーン

『エミリア シズル 弦太郎 OUT』

田中星人『さわやかな…?』

エミリア「痛い！」

シズル「だあ！」

弦太郎「でえ！」

きるびる「……」シズルをガン見

シズル「ふふふつ」

『デーテーン

『シズル OUT』

田中星人『良い子のみんな いいかなー』

シズル「ぎやあ！」

絶対に笑つてはいけない警察署 PART1（後書き）

ホストやむらこときるびるの本名知つてゐヒトがいたら教えてくだ
ちい

絶対に笑つてはいけない警察署 PART2（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：1回

エミリア：2回

シズル：2回

クライス：1回

弦太郎：2回

玄野：2回

絶対に笑つてはいけない警察署 PART2

(バスが停留所に泊まる)

？？？「オオオオオオオオオオオオオオオオ！」

皆「「「「「ぶつぶふ」」」」」

『テーン

『全員 OUT』

田中星人『カンタローツ』

アダム「があ！」

ヒロア「きやあ！」

シズル「どお！」

クライス「でえ！」

弦太郎「だあ！」

玄野「げふ！」

(バンパイアの斎藤が江頭2・50の恰好でバスに飛び込んできて

モノマネ開始)

斎藤「だあああ！！だあああ！！どおおお！！」 手すりに突進して跳ね返つてまた反対側の手すりに激突、これを延々繰り返す

弦太郎「だつはつは！あーつはつは！」

斎藤「おおおおおおー！！！！！」 セツセツと退場

「デーヌ

『弦太郎 OUIT』

田中星人『祐三くん？』

弦太郎「があ！」

鬼柳「見えてきたぜ。アレが、オンドゥル 温度壳警察署だ！」

HIMCOA「うつわ、地獄の門だ！」

鬼柳「よし、全員降りたな。じゃあ、受付に行くぞ。」

弦太郎（受付嬢トラップキターッ…）

鬼柳「彼女が、受付嬢のセイバーさんだ。何でも知ってるから、分からぬ事があつたらこの人に質問するように。」

セイバー「ちよりーつす、セイバーでいーすヒック（> <）」
90度のウォッカのボトルを手に握り、ラツツの袋に手を伸ばしながら挨拶

アダム「んふつふ

エミリア「ふつふふ

玄野「くくく…」

デーティン

『アダム エミリア 玄野 オウト』

田中星人『ヘイーヘイーヘイー

アダム「いつつ…」

エミコア「いたあ！」

玄野「いっづー！」

シズル「セイバーさん！何で昼間から酒乱モードなんだ！」

セイバー「んああ？何言つてんだ銀髪兄ちゃん、あたいは全然酔つてねーっつーの「ゴクゴク…」 ウオッカをストレートでラッパ飲み

エミコア「いや、見て分かるから。」

セイバー「エミにゃんまでなにいつてんだよ～ぱりぱり～」
クラッ を食べ、ウォッカをラッパ飲み

エミコア「んふふ」

シズル「…ふふつ」

クライス「ぶーつ！」

デーテーン

『エミリア シズル クライス OUIT』

田中星人『ハーアーハーアーハー』

エミコア「きやあ！」

シズル「うぐつ！」

クライス「いつたあ！」

セイバー「んじゃな」新米ども「ぐびぐび」

ウォッカを以下略

アダム「エミにゃんね…」

シズル「あだ名がついたな。」

エミリア「嬉しくないわ！」

クライス「……」

玄野「あ、クライス笑つたぜ。」

デデーン

『クライス OUT』

田中星人『カンタローツ』

クライス「いつで！」

絶対に笑ってはいけない警察署 PART2（後書き）

はい、Hミコアにあだ名がつきました。

絶対に笑つてはいけない警察署 PART3（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：3回

エミリア：5回

シズル：4回

クライス：4回

弦太朗：4回

玄野：4回

今回はちょっと短いです。

絶対に笑つてはいけない警察署 PART3

鬼柳「ここがお前らの部屋だ。俺が呼びに行くまでそのまま待機だ。」

「

エミリア「で、恐怖の引き出しじネタつてわけね。」

アダム「はあ、だな。んじゃ、俺から行くぜ。…ふくくッ…」

デーティーン

『アダム OUT』

田中星人『さわやかな…?』

アダム「いだつ！」

エミリア「何が入つてたの？」

アダム「…『ガネムシの死骸。』

エミリア「ふふつ」

玄野「ぶつ」

デーティーン

『エミリア 玄野 OUT』

田中星人『カンタローツ』

ヒコア「ひやあー」

玄野「いっづー」

アダム「……一番下にこれあつた。それ以外は何もなし。」ボタンを取り出す

ヒコア「まア、これは後で処理するとして、次はあたしね。……無い……」
「こも無い……うつわ、また……」ボタンを取り出す
アダム「お前のところにもあつたか……」

ヒコア「……あ、ボタンだけだよ。」

シズル「押したくて仕方が無いんだが……」

クライス「僕も。」

ヒコア「じゃあ、二つともいくよ。まずはあたしの机にあつた方。
… 3-2-1-」押す

『ヒコアさんへの出題です。』

玄野「クイズか。」

『問題。原作のガンツが、ねぎ星人ミッシュショーンで玄野に下したコメントを言いなさい。』

皆「「「「「え、ええええええええええええ！」」「」「」「」

弦太朗「流石に、女子が『アレ』を言つのはな…」

玄野「同感だ。つてか、俺の黒歴史を掘り返さないでほしい。」

シズル「うんうん。」

H//コア「年頃の女子に『あんなこと』いわせんなあああああ！」

ブッブー

デデーン
『H//リア OUT』

田中星人『ハーアーハーアーハーアー』

H//コア「いだつ！」

（ちなみに正解は『巨乳見てちんこたち過ぎ』。規制音をいれなかつたのは出所元を尊重してであります。）

アダム「絶対答えられない事を見越してだな。」

H//コア「絶対そうだよね。」

絶対に笑つてはいけない警察署 PART 4 (前書き)

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：4回

エミリア：7回

シズル：4回

クライス：4回

弦太郎：4回

玄野：5回

絶対に笑つてはいけない警察署 PART4

クライス「やつぱりアダムのボタンは保留にするか?」

シズル「いや、今のうちに処理しよう。」

エミリア「だね。」

アダム「…押すぜ?」押す

(天井からカナブンの死骸が降つて来る)

弦太郎「…こんだけ?」

エミリア「…みたいだね。」×ガンでボタンを一つとも粉碎

シズル「次は僕か。まずはこの引き出し…」

(ヤングマガジンが入つてた)

弦太郎「ヤンマガが好きなのかお前?」

シズル「どちらかと言つと僕は少年誌派なんだがな…さて次は…」

(またしてもヤンマガ)

シズル「…次は…」

(3たびヤンマガ)

シズル「次…」

(またまたまたヤンマガ)

エミリア「ヤンマガばっかじやん。」

クライス「最後くらいは違う奴だろ。」

玄野「ヤンジャンだつたら俺がもうつてんけど…」

シズル「…最後行くぞ…」

(ヤンマガぎっしり)

エミリア&シズル&玄野「ぶふつ」

デーラン

『エミリア シズル 玄野 OUT』

田中星人『雄二君?』

エミリア「きやあ！」

シズル「でえ！」

玄野「いっだ！」

クライス「次は僕だな。…」」は無し。…出た…ボタン…」 ボタンを出す

弦太郎「ボタン多いな。」

クライス「…次は無し…これもなし…次は…何かヤケに重いなこの引き出し…」

玄野「何が入ってるんだ?」

(一番下の引き出しに何やら真っ赤な妙にさうとした液体がなみなみと満たされてた)

皆「「「「「」」」」

クライス「…」 黙つて引き出しを閉じる

弦太郎「…ともかく! 次は俺だな! よつし開けるぜ!…お、無しか。…」」も無し。で、この段は…んだこれ。…布?」 置まれた布を取り出す

玄野「広げてみるよ。」

弦太郎「おお、わかつた!」

(布の正体・仮面ライダー部の旗のレプリカだが真ん中に描かれているのはフォーゼじやなくてクノーの顔)

皆「「「「「」」」」

デーテーン

『全員 OUT』

田中星人『カンタローツ』

アダム「いでえ！」

エミコア「いたあ！」

シズル「ぐお！」

クライス「いつだ！」

弦太郎「がう！」

玄野「ぎやあ！」

シズル「おにぎり繫がりか…」

弦太郎「いや俺おにぎりじゃねえって！」

エミコア「でもおにぎりとも言われるよね。」

弦太郎「とにかく残りの処分するぞ。…」
「SHフォーゼBステイツを取り出す

玄野「残りは俺だけか。えつと最初は…」

ブツ シュウウウウウウウウウウウウウウ ! ! !

(結局全部〇〇? ガス。ちなみにこれで笑ったメンバーはゼロ。)

玄野一也・日向一也・日向一也

エミリア「これで全部処分できたね。さて、次は...」

ケテイスー僕のボタンか。よし、押すぞ。」

バンツ！

「……………」

（近くの棚の上に飾つてあつたオブジェが大爆発）

玄野「よし、これで引き出しネタは全部処分できたな。」
「でボタンを押しつぶす

絶対に笑つてはいけない警察署 PART5（前書き）

ただいまケツをぶたれた回数

アダム：5回

エミリア：9回

シズル：6回

クライス：5回

弦太郎：5回

玄野：7回

絶対に笑つてはいけない警察署 PART5

鬼柳「皆、警察つて、なんか何処となく堅いイメージがあるだろ?」

弦太郎「まア、言われてみればそうだな。」

鬼柳「そういうイメージを払拭するための演劇発表会があるから、観に行くぞ。」

エミリア「ぎやー…」

(講堂にて)

『皆さま、大変長らくお待たせいたしました。これより、警察劇団による、演劇発表会を開始いたします。ごゆっくりお楽しみください。』

フアラララツフアラツ フアラララツフアラツ フアラララツフ
アラツ デン

ホンワカパツパ ホンワカパツパ ホンワカパツパツパ
ホンワカパツパ ホンワカパツパ ホンワカパツパツパ…

エミリア「新喜劇じゃん…」

クライス「何にも警察なことないじゃねえか…クソが…」

(向かいにクリーニング屋があるつじん屋のセントが出てくる。ちなみに店名は『冬木つじん』)

ウエイバー「いや、おいしいですね此処。ちょっとほろこから正直不安だったんですけど。」

慎一「あ、ありがとうございます。ま、ほろこは余計ですけどねハハハ。」

桜「もー、お上手なんですからー!」手に持っていたお盆でウエイバーを殴打

ウエイバー「あやまつー!」

アダム「くくく…」

H//コア「ふう」

シズル「んつふふ」

クライス「ふふふ」

弦太郎「つふふつ」

玄野「ふはつ」

ウエイバー「何するんですか!」

慎一「すこませんーまだ勤め始めたばかりやから分からん事ばつかしなんですけどね…ほり、謝らんとアカンやん…」

桜「「めんなれー…もお、お兄ちやんそんナキシベ言わんでもええんちやうん…」

ウニコア（何で喧嘩西弁なのよ…）

ウニバーサル「アーティスト、」「せ兄弟一人でやつてんですか？」

慎一「こや、母もこまսけど、今は買こ物に出てるんで。もうわうやう戻つて来ると思つたんですけどね…あ、戻つてきた。お母ちやん…お母ちやん…」

（老け顔メイクを施し、湯老婆おふくろみたいになじをかぶつてアイリ姫場）

アイリ「「メンやしておくれやして」」あんやつしゃ～……」

（金環きんわん）

ウニバーサル「何なんですかそれー」

アイリ「こや、」の挨拶しないと湯老婆に間違われるんです。」

ウエイバー「そ、そつですか…」

アイリ「あ、申し遅れました。私が『』の経営者で、元ミス・ゴーバースのアイリスフィール・フォン・アインツベルンと申します。」

ウエイバー「あ、ミス・コニッシュバス?」

アイリ「エ、ツ…いや、ミス・コニバーです。」

ウエイバー「あ、ミスって失敗のミスですか。」

アイリ「ハ、ツ…いや、美を競つコンテストの事です。」

ウエイバー「え? 病気を競つコンテスト?」

アイリ「ハ、ツ…いや、美しさの事ですよ。」

ウエイバー「ああ、そつちの事ですか。」

アイリ「まあ、もう若い頃の話ですけどね。ウフフフフッ、ハッハッハッハッハッハッヒッフッヘッホッ」

(またしても全員すつこける)

桜「もあ、お母ちゃん。」

アイリ「『』ねん。」

ウエイバー「面白いお母さんですね。じゃあ、お愛想お願いします。」

「

桜「あ、はいはい…」

(勘定を済ませ、ウエイバー退場)

慎「それにしてもお母ちゃん、もういい年なんやから、仕事は僕
に任せてもいいやつなんだらどうひへ…」

アイリ「何言ひてんの、私は樂しへやつてんのよ。それに私はま
だまだ元氣よ…」

桜「お母ちゃんがそつぱつとやつたりええやう…」

士朗「あ、じんじんはアイリさん…」 クリーーング屋からでてくる

アイリ「あ、士朗じゃない…どうしたの？」

士朗「いや寒はですね、僕の恋人が今日遊びに来るんですけど、ア
イリさんを紹介してもいいですか？」

アイリ「いいけど、何で私なん?」

士朗「何でって、アイリさんと、亡くなつた切嗣さん、両親を亡く
した僕を息子みたいに世話をしてくれたじゃないですか。高校と大学
の学費まで出して下さつて、ホント、感謝してもしきれないくらい
ですよ…せめて、それくらい…」

アイリ「あ、そんなんに思つてくれるなんて嬉しいわ。」

士朗「あ、来た来た。」
「…せめていいかや。」

(セイバーが私服で登場)

セイバー「お邪魔しますか?」

(思はずに立つ)

慎一「いや、『か』は要らないかい。」

セイバー「あ、『か』はいりませんか。分かりました。お邪魔します。あの、『こ』が冬木うどんです。」

慎一「こや、『こ』はこるでしょー。」

セイバー「あ、分かりました。此処が冬木うどんですか?」

桜「あ、わつです。」

セイバー「私、シロウの恋人をやらいでいる、セイバーと言つ者ですか?」

慎一「『こ』は『か』いらんからー。」

セイバー「あ、はい。私、シロウの恋人をやらいでいる、セイバーと言つ者ですが、」

慎一「あ、『が』ね。それやつたひがんと濁点つけて。」

セイバー「あ、濁点つけるんですか。ばじめ、まじで…」

慎一「全部ちやう全部ちやう！必要なところだけ濁点つけて！」

セイバー「分かりました。初めてまして。貴方達のお話はシロウからよく聞いています。シロウをこんないヒトに育ててくれたのが、アイリさん達なんですね。」

桜「礼儀正しいんですね。」

セイバー「いえいえ、そこまでではありませんよ。」

士朗「こいつ、基本的に結構他人行儀なんですよ。」

アイリ「いいじゃないの、こうこうのはいい癖なんやから。所で、『セイバー』って名前やけど、外人さん？」

セイバー「イギリス出身ですけど、今は日本国籍です。」

アイリ「へえ。」

Hミリア「Fateメンバーで新喜劇つて…」

アダム「こりゃ今後も破壊力あるネタが来そうだな。

絶対に笑ってはいけない警察署 PART5（後書き）

最近新喜劇観てないな…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0865ba/>

リトルウイング雑務日誌セカンドシーズン 混・沌・交・錯
2012年1月14日15時48分発行